

眼科診療での季節感



岩内古宇郡医師会
いわない眼科クリニック

寺山 亜希子

皆さんのクリニックでは、受診する患者さんの症状で季節を感じることはないでしょうか。

視力低下を指摘された小、中学生が受診するのが春（4～5月）、シラカバアレルギーで眼がかゆいという患者さんが増えると、私が楽しみにしている5月の連休です。今年のこの時期のアレルギー患者さんは少なかったため、花粉も少なかったのではと考えています。笹や木で眼をついたという患者さんが増えると山菜採りの時期で、今年はちょっと早めの今ごろ（5月中旬）になります。いつもは5月末から6月初めです。時々、そのおぼれの竹の子を貰います。サッカーや野球の練習後の充血の患者さんが増えると、日差しの強い日が続く夏、再び眼のかゆい患者さんが増えると、ヨモギのアレルギーで朝晩寒くなってきた秋、さらに寒くなって暖房を使い出すときも眼がかゆいという患者さんが増え、初冬になります。網膜剥離の患者さんが増えると冬です。大学病院時代は冬になると手術が必要な網膜剥離の患者さんが続いて送られてくることが多く、網膜剥離はウイルスが原因だから、冬に伝染して増えると冗談を言うほどでした。診療時間をどう使おうかと頭を悩ますほど暇な時間ができるようになると、眼科では閑散期の1～2月です。スタッフとの勉強会に時間を使うのにも限界があります。この閑散時期にスタッフに休みを取ってもらうとか、休診にして旅行に行くのによい時期だとここ2～3年考えますが、ただでさえ患者さんが少ない収入減の時期に休む勇気がありません。旅行も天候で交通機関の不通などを考えると、予定が立てにくく、なかなか難しいところです。雪が解けて暖かくなると、どこからともなく患者さんが増えて3月を迎えます。雪が解ける時期にも車粉が原因と思われる（自説）アレルギーの患者さんが来院します。ここまで書いて、私の季節感はほぼアレルギー患者さんで感じていた、当たり前なことだと気付きました（笑）。

自分のアレルギーも去年から悪化し、3月から6月いっぱいまで鼻水、くしゃみ、眼のかゆみとすべて症状は出そろい、その後は鼻づまりの症状が1年中続きました。鼻づまりで頭がぼーっとして、鼻づまりで集中力がこんなに落ちるんだ、鼻づまりで夜も目が覚めるんだと、鼻づまりがこんなにもつらいものかと実感した1年でした。今年はそんなに症状

が出ず安心していましたが、先日、札幌で急に症状が出てしまい、コンビニでポケットティッシュ、薬局で内服薬を購入し、今も、内服を継続してどうにか落ち着いている状態です。雑草の多い田舎にいるためにアレルギーが出ているのだと思っていたのに、都会でも症状が出るとのこと、鼻づまりとともにすっきりしない今日このごろです。

